教育長だより　No. 25

２０２２年1月１３日

新学期：授業改善の３つの指標

「私語」「忘れもの」「時間にルーズ」、この３つは、子どもたちの学力低下となるばかりか、先生の指導力の問題にもつながります。これらを先生の責任という捉え方をしてみると・・。

1．私語

「授業がおもしろくないから、子どもがしゃべる。」「授業が子どもの意識と遊離しているから・・」「子どもにわかるように説明していないから・・」「子どもをちゃんと見ていないから・・」などと、自分の授業を分析・反省する材料となり、すばらしい授業改善になります。

みなさん、子どものころ授業を受けていて「つまらない。」と思ったことはありませんか。台本を読むかのようにただ話すだけの先生など、今、自分がそんな風になっていないか反省するところから始まります。また、反対に、時間を忘れるぐらい夢中になった授業も。そんな授業にはどんな要素があったのか考えてみましょう。具体的か視覚的か、先生の話し方にメリハリがあるか・・・いろいろありますね。

2．忘れもの

「忘れもの表」を教室に貼って、○×をつけても、本質的な改善は望めません。むしろ、「さらし者」をつくるだけですので、今は全国的にこうしたことは行われていません。「忘れものはするものだ。」という前提の上に、忘れさせない工夫をどれだけ事前に先生がするのかが重要です。（よく「明日、必ず持ってきなさい。」と先生は簡単に言いますが、それぞれの家庭にも事情はあります。ですから、「家庭が問題だ。」とは決して言えません。）事前にプリントを配布する、連絡帳に記入させる、電話連絡する、あるいは、その子の家に行き、一緒に準備するなど、先生がすべきことはまだまだあります。

3．時間にルーズ

朝の会から続く１時間目、授業は８：５０に始まる予定が、毎日のように朝の会が授業に食い込んでいる。こういうことってありませんか。学校全体で「授業時間の確保」を打ち出している中で、これだけは避けたいものですね。そんな学級では、朝の会自体を組みなおす必要があります。一度、学年で話し合ってみてください。また、朝の会の前には必ず教室に行き、健康観察を早めにするなど、子どもに約束を守らせるために「時間を有効に使うよさ」を自ら実践してみせるという方法もあります。

そして、とにかく子どもたちに時間に関する目的意識を持たせることが重要です。例えば、時間に関してよいことがあったら「ほめる」。具体例では、朝の会を自分たちで時間通り始めた、掃除が昨日よりも早くきれいにできたなど、先生が子どもたちをほめることで、時間に対する意識も変わってきます。

どれも、先生が日常的に指導すべき学級経営の基本です。　　（日文『指導のＡＢＣ』より）

子どもたちを怒るのではなく、先生が「自分に返すこと」、ここから授業改善は始まります。